



2016年5月発行

TEL&FAX: (0265) 39-2205

E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

## 熊本地震で大鹿の中央構造線は動きますか？

熊本地震が起き、テレビや新聞が「中央構造線」との関連を言い出しました。でも私は、大鹿には影響は無いと思います。その理由を次に述べます。(河本)

### 古い中央構造線は一続き、活断層としての中央構造線は切れ切れ

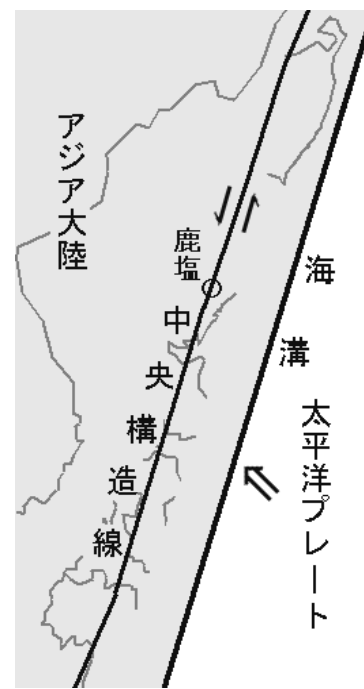
#### ◆鹿塩マイロナイトの時代

中央構造線は約1億年前に誕生しました。恐竜の時代です。そのころ日本海は無く、中央構造線もアジア大陸の中にできました。最初のずれ動きの証拠は大鹿村の「鹿塩マイロナイト」に残っています。

#### ◆地質の境界になった時代

まだアジア大陸だった数千万年前には、中央構造線を境に、花こう岩と結晶片岩という、でき方がちがう岩石が並んで接するようになりました。この岩石の境目を「地質境界としての中央構造線」と言います。

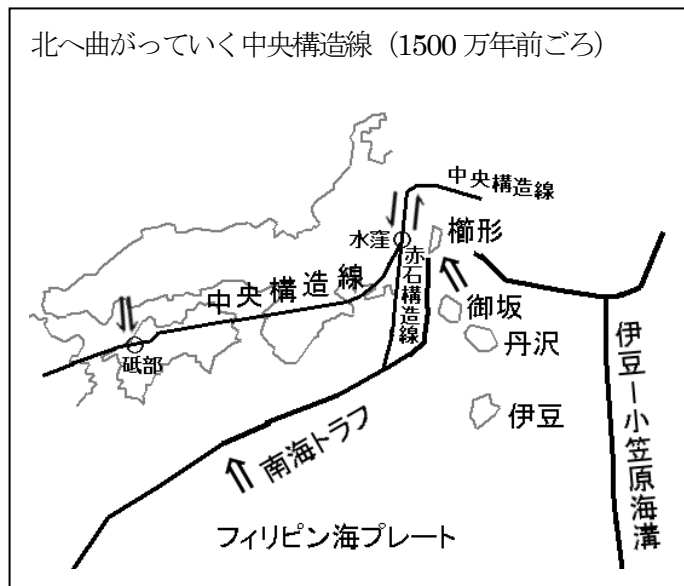
鹿塩マイロナイトができたころの中央構造線(1億年～7000万年前)



#### ◆伊豆 - 小笠原列島の衝突で、四国と南アルプスの中央構造線は別の断層になった

2000万年～1500万年前に日本列島は大陸から離れました。そのころフィリピン海プレートの沈み込みが始まり、伊豆 - 小笠原列島が本州に衝突し始めました。その衝突で本州側は北方へ押し曲げられました。今は南アルプスになっている地域の中央構造

線も北方へ曲がり、水窪～天竜河口  
～南海トラフに南北方向に生じた赤  
石構造線と一続きの横ずれ断層にな  
り、東側が北へ60kmずれ上がりまし  
た。その古傷が侵食されて今の秋葉街  
道の谷になっています。このころの四  
国の中央構造線は北から南へ押し



ぶさる縦ずれ断層でした。したがって、この時代から後の中央構造線は、四国・中部・  
関東の区間で向きが異なり、別々の断層になったと考えるべきと思います。

#### ◆「活断層としての中央構造線」も、四国-和歌山区間と南アルプス区間は別の断層

活断層としての中央構造線は、およそ 200 万年前に始まった今の日本列島の地殻変  
動で再びずれ動いている区間です。四国～奈良県五條と佐久間～大鹿の区間は確実に  
活断層と考えられています。ずれ動くのは数百年～数千年に 1 回ですが、四国は地形  
のずれが 1000 年に数 m の A 級、南アルプスは 1000 年に 10cm 程度の B-C 級です。

#### 熊本地震は、中央構造線ではなく「別府-島原地溝帯」の地震

今の南九州～沖縄は南へ引っ張られ、別府-島原地溝帯～沖縄トラフが割れ広がっ  
ています。熊本地震も引っ張られて発生しました。今の日本列島で地殻が大規模に引  
っ張られているのはこの地帯だけです。中央構造線は火山に覆われて見えません。

#### 熊本地震の規模では、中部地方の活断層の「誘発」は考えにくい

大きな地震にともなう地殻変動が引き金になり、別の断層の動きが誘発されること  
があります。1596 年 9 月 1 日～5 日に大分・愛媛・京都で大地震が次々に発生しまし  
た。ただし熊本地震で解放されたエネルギーは、前震と余震を合わせても 2011 年東  
北沖地震の数 100 分の 1 なので、地殻変動は中部地方まで及ばないと思います。